

**市町村及び自主防災組織等における
防災・減災に係る特色ある
取組についての事例集**

**令和4年2月版
大阪府危機管理室**

目次

ページ数

市町村の取組

(大阪市天王寺区) 地域振興会災害救助青年部(地域防災リーダー)研修会	1
(大阪市都島区) 家族を守る～地域を守る 地域防災座談会 広報誌の発行	2
(大阪市住吉区) 地域防災リーダーの育成	3
(大阪市住吉区) 災害救助部長会議	4
(大阪市住吉区) 土曜授業における防災学習	5
(堺市西区) 自主防災合同訓練	6
(岸和田市) 外国人市民と地域社会住民のための防災訓練	8
(高槻市) 防災行事「よんぼーサイ」	9
(茨木市) 指定避難所【再現】訓練	10
(茨木市) 災害医療救護活動訓練	12
(茨木市) 災害ボランティアセンター運営訓練	13
(茨木市) 女性防災リーダーの育成やっています!!	15
(茨木市) こどもの命を守るママとパパになる!	17
(茨木市) 外国人(留学生)と協働実施!	18
(茨木市) キャンプで学ぶ防災力!	20
(茨木市) みんなでつくる防災ひと・まちづくり報告会	22
(茨木市) 「チーム防災士いばらき」発! 訓練指導シクチャー会	24
(富田林市) 自主防災組織連合会研修!!	26
(寝屋川市) 避難所開設・運営マニュアルの作成	28
(松原市) 地域防災ネットワークプロジェクト訓練!!	30
(南河内地域危機管理担当部局・大阪府富田林土木事務所) 南河内地域自主防災組織意見交換会	32

自主防災組織等の取組

(大阪市住吉区) パニック震災訓練	34
(堺市西区) 浜寺4校区津波避難訓練	36
(堺市東区) 校区自主防災会による瓦礫救出訓練!!	37
(堺市東区) 防災学習訓練	38
(岸和田市) タオルを活用した安否確認訓練①	39
(岸和田市) タオルを活用した安否確認訓練②	40
(岸和田市) 「いざ」よりも「日々」を大切にした防災福祉活動	41

(吹田市) 独自の状況付与カードを活用したHUG訓練	43
(吹田市) 災害に向き合い災害に備える千里丘を!	44
(高槻市) 遠助交流開始	45
(高槻市) 近隣組織への指導活動	47
(高槻市) 災害時要援護者訓練	48
(高槻市) 「支えあい・助けあい」の地域づくりを!	49
(茨木市) わが家は大丈夫!黄色いボード作戦	50
(茨木市) 「防災教室」2015	51
(茨木市) みんなにやさしい防災めざして 女性部会発足しました!	52
(茨木市) イザ!東中校区フェスタ	54
(茨木市) みんなにやさしい避難所づくり体験~いばらき女子防災部からの発信~	55
(茨木市) 「防災教室」2021	57
(八尾市) 女性を主役にした組織活性化	58
(八尾市) 学生消防隊が地域防災活動を活性化!	59
(泉佐野市) 避難所開設のためのサイクル訓練(班別体験訓練)	61
(泉佐野市) 段階的訓練の実施	62
(泉佐野市) 防災運動会方式訓練	63
(河内長野市) 避難行動要支援者名簿で見守り活動を実施	64
(柏原市) 地区の土砂災害ハザードマップ作成訓練	66
(摂津市) 洪水被害犠牲者ゼロをめざして	67
(東大阪市) 地域版ハザードマップ作成訓練!!	68
(河南町) 880万人訓練や風水害訓練と連動した訓練	70
(河南町) 幼稚園と一体となった避難訓練	71

地域振興会災害救助青年部（地域防災リーダー）

研修会を開催しました！

（大阪市天王寺区危機管理課）



○特徴的な取組内容

●目的

・天王寺区地域振興会災害救助青年部（地域防災リーダー）全体研修会において、発災直後から地域防災活動を防災リーダーとしてどのように導いていくべきか、疑似体験事象への対応策を検討することによる災害救助青年部員の技能向上と、地域全体の防災力の向上を目的とする。

●避難所開設・運営と自主防災組織の活動について

（訓練内容）

・天王寺区地域振興会災害救助青年部（地域防災リーダー）全体研修会において災害時避難所の開設と避難所における自主防災組織の運営をシミュレーション形式により疑似体験し、より現実に近い避難所運営方法の検討を進めるもの。

●活動の成果

・「災害時に発生する事象を具体的に想定し、その対処法を検討することが、その対応を行う組織の構成や対処法を検討する上で有効な手段であると認識できた」、「今後の地域防災訓練に活かせる」といった前向きな意見を多くいただき、技術や意識の面で効果があった。

●課題と今後の取組方針

・災害時避難所は避難された方々が主体となって運営することになるが、このような疑似体験訓練を行うことで、より現実味を持った防災計画を作ることができると考えられるので、このような取組を継続することは重要であると認識している。

「家族を守る～地域を守る」

地域防災座談会 広報誌の発行

(大阪市都島区役所まちづくり推進課)



○特徴的な取組内容

●目的

・地域で先導的に防災活動に取り組んでいる災害救助部長及び地域防災リーダー隊長にスポットを当て、地域活動協議会(※)の枠を超えたコミュニケーションの場を設け意見交換を行うことにより、地域の課題や問題点等を確認し地域防災活動に役立てる。また、その模様を区広報誌「広報みやこじま」で情報発信することにより区民の防災意識の向上へつなげることを目的とする。

●「家族を守る～地域を守る」地域防災座談会 広報誌の発行

・地域防災リーダーが、地域を越えて集まり防災をテーマに座談会を行った。自分たちの活動に対する熱い思い、まちの抱える問題点など多様な意見の交換の場となった。この内容をより多くの区民と共有するために、広報誌への掲載を行った。

●座談会実施・広報紙掲載の成果

・まちの抱える問題点・課題点を防災活動の中心となる地域防災リーダーの中で確認することができた。
・広報誌に掲載することで、より多くの区民への防災に関する情報発信となった。

●課題と今後の取組方針

・今後も、より多くの区民の防災・減災意識を高めていくために、防災情報の発信を行っていく。

※地域活動協議会・・・校区等地域を単位とし、地域課題に対応するとともに、地域のまちづくりを推進することを目的として形成された連合組織をいう。

(<http://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000190407.html>)

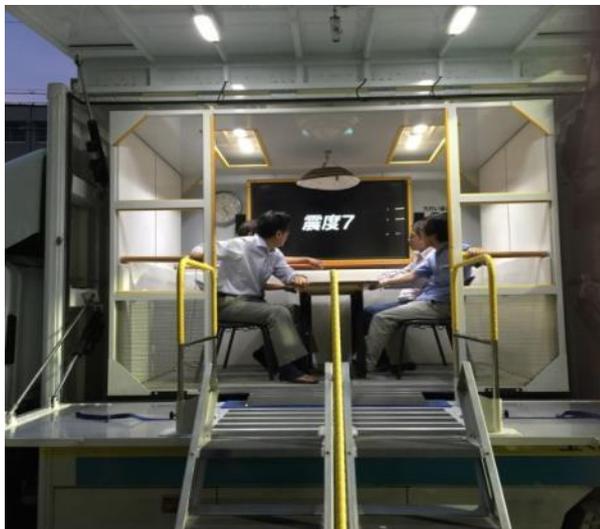
大阪市都島区

まちづくり推進課

問い合わせ: 06-6882-9957

地域防災リーダーの育成

(大阪市住吉区地域課)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・地域防災リーダーは、大規模災害時に、隣接住民の先頭に立って初期消火救出救護活動を行うリーダーとして、また、平常時には地域の人たちに、防災点検・防災啓発を行うことを目的に平成 8 年 8 月 6 日に発足し、平成 27 年 4 月 1 日現在 284 名の地域防災リーダーが活躍している。

●地域防災リーダー研修

- ・毎年 7 月に研修を実施している。平成 27 年度は、起震車による地震体験、救命講習会を行った。

●活動の成果

- ・研修を行うことによって、災害時に対応できるような知識や技術が習得できる。

●課題と今後の取組方針

- ・地域防災リーダーに任命されている方の中には 80 歳を超えている方もおり、若い世代の担い手を確保することが課題である。

大阪市住吉区地域課

問い合わせ:06-6694-9734(直通)

06-6692-5535(FAX)

災害救助部長会議

(大阪市住吉区地域課)

○特徴的な取組内容

●目的

- ・住吉区内 12 地域に 1 名ずつ災害救助部長を置き、避難訓練時や災害時には中心となって指揮をとってもらうことを目的とする。

●災害救助部長会議

- ・各地域の取組や、問題点等を話し合い、他地域の災害救助部長に意見やアドバイスをもらう。
- ・住吉区役所で進めている防災事業について助言等をもらう。

●活動の成果

- ・防災・減災への取組は、地域によって、温度差があるのが実情である。各地域の取組を知ることによって、あまり取組が進んでいない地域も、他地域を参考に進めていくことができる。
- ・各地域で抱えている問題を話し合うことによって、問題が解決に向かうことがある。

●課題と今後の取組方針

- ・今後も、災害救助部長会議を積極的に開催し、地域の防災・減災への取組がスムーズに進むように支援していく。

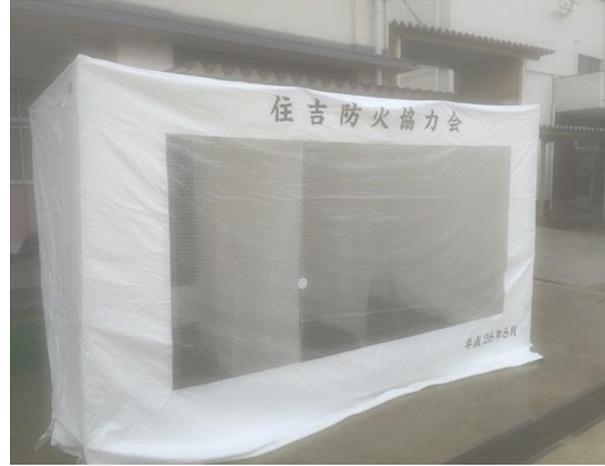
大阪市住吉区地域課

問い合わせ:06-6694-9734(直通)

06-6692-5535(FAX)

土曜授業における防災学習

(大阪市住吉区：苅田北小学校・苅田北ほほえみ協議会)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・土曜授業を活用し、学校と地域が合同防災訓練を行うことにより、いつ起こるかわからない災害に備え、子ども、保護者、地域が一体となった災害対策を進めることを目的とする。

●防災学習

- ・苅田北小学校(平成 27 年 5 月 16 日実施)では、2年生を対象に「煙ハウス体験」、4年生を対象に「水消火器による消火体験」を行った。
- ・児童の体験後、全学年を対象とした「親子防災教室」を開催し、「煙ハウス体験」、「水消火器による消火体験」、「起震車による地震体験」を行った。

●活動の成果

- ・当日は、保護者・地域住民も参加し、子ども達も真剣な表情で体験を行った。自宅に帰ってからは親子で防災教室の話をする事により、災害時にはどのような行動をとるかを決める等、防災意識の向上につながった。

●課題と今後の取組方針

- ・継続的に訓練を実施する必要がある。また、避難所開設訓練と連携して取組めるよう考えていく必要がある。

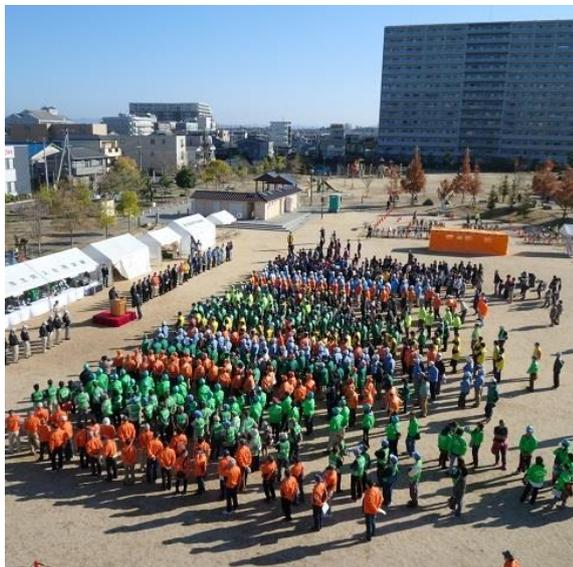
大阪市住吉区地域課

問い合わせ:06-6694-9734(直通)

06-6692-5535(FAX)

自主防災合同訓練

(堺市西区：堺市西区自主防災合同訓練実行委員会)



○特徴的な取組内容

●目的

・西区における大規模な地震・風水害・火災等に備え、「自分たちの町は自分たちで守る」という自主防災の基本理念に基づき、住民の防災意識の高揚や防災知識の普及啓発を図り、もって校区自主防災組織活動の発展に寄与することを目的とし、平成19年より西区自主防災合同訓練を実施している。

●訓練内容

【訓練】

消火バケツリレー、水消火器訓練、ロープ結索・救出訓練、搬送法、AED使用法、煙体験・通報訓練、三角巾活用法、包帯法、心肺蘇生法、子ども防災研修会
全体訓練(YES/NO訓練 ※O×クイズ形式)

【啓発】

消防局・上下水道局車両展示、防災関係啓発物展示、非常用持ち出し品展示、
防災DVD上映、防災用パーゴラテント設営、仮設トイレ設営

参加人数：西区自治連合協議会700名、近隣小学生100名、消防・警察等参加機関100名
など、約900名

【訓練指導員制度】

- ・訓練内容のうち、水消火器訓練、消火バケツリレー、ロープ結索、搬送法においては、各小学校区から選出された指導員が消防局による事前研修を受け、訓練の指導を行うことで、小学校区での自主防災訓練への活用や校区間での連携強化など地域防災力の向上を図っている。

（活動）

- ①地域から選出された指導員が、消防局で事前研修を受ける。
- ②当日、隣接した複数の校区で1つのブースを受け持ち、訓練の指導を行う。

●活動の成果

- ・区内の防災リーダー同士が顔を合わせる機会を作ることで、共助の体制作りにつながっており、ひいては地域全体の防災力の向上につながっている。

●課題と今後の取組方針

- ・各校区から選出された自主防災委員が中心となり、毎年の訓練内容を決定している。今後も、地域の実情に合った、より効果的な訓練を行っていきたい。

堺市西区自主防災合同訓練実行委員会事務局
(西区役所自治推進課内)
問い合わせ:072-275-1902(直通)

外国人市民と地域社会住民のための防災訓練

(岸和田市：岸和田市国際親善協会)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・母国を離れ、言語・習慣・文化の違う地で暮らす外国人市民を対象に、地域に密着した災害時外国人支援を推進し、地域における防災力向上を目指す事業として、岸和田市国際親善協会が主催し、実施する。

●外国人市民と地域社会住民のための防災・災害時訓練

(訓練内容)

- ・水消火器による初期消火訓練（消火器の取り扱い方と模擬火災消火の体験）
- ・バケツリレーによる初期消火訓練（連携消火方法の習得）
- ・応急救護訓練（訓練用 AED を使用した救命法、心肺蘇生法の習得）
- ・救助救出訓練（模擬転倒家具からの負傷者救出、安全な場所までの搬送方法の習得）
- ・緊急時対応訓練（消防署等への緊急通報の説明）
- ・「岸和田市総合防災マップ」の紹介(岸和田市危機管理課)
- ・「外国人市民のための防災ハンドブック」の紹介(岸和田市国際親善協会、和英文併記)
- ・「災害時困った時は…」の説明(岸和田市社会福祉協議会)

●活動の成果

- ・広く参加の呼びかけを行い、大勢の外国人市民の参加があった。
- ・普段地域の訓練に参加していない外国人市民も知識や緊急時の対応方法等を習得できた。

●課題と今後の取組方針

- ・地域密着型の外国人支援を推進するため、今後も継続していきたい。

岸和田市国際親善協会

対象地域：岸和田市全域

問い合わせ：岸和田市危機管理部危機管理課

072-423-9437(直通)

防災行事「よんぼーサイ」

(高槻市立第四中学校区地域教育協議会(市教委委託))



○特徴的な取組内容

高槻市立第四中学校区地域教育協議会では、地域の大人が連携して子育てを進める中学校区をめざして活動を進めている。

●目的

阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓を踏まえ、今後発生する確率が高いと言われている南海トラフ巨大地震等を想定し、日々の危機意識を高め、第四中学校区の地域住民が子どもたちと共に防災について考え、活動体験や講話を通じて学びあい、行動する力を高める。

●避難所開設訓練

地域の中学生が受付班、誘導班、食糧班、衛生救護班、活動支援班に分かれて避難所設営を中心に訓練を行った。

- ①受付班・誘導班: 避難役の方々の受付を行い、避難ブースに誘導した。
- ②食糧班: 地域のPTAと共に、非常食であるアルファ化米を分ける作業を行った。
- ③衛生救護班: 避難者情報を見ながら、対応を考えた。
- ④活動支援班: 参加者へのお茶の提供、荷物運搬、小さな子どもの対応等、様々な活動を実施。

●ミニ学習会

①阪神・淡路大震災の体験談

阪神・淡路大震災の際、避難所となった小学校で校長先生をされていた方の体験談

②防災ミニ講座

高槻市危機管理室と高槻市コミュニティ市民会議地域安全部会長による講演会

③救急ミニ講座

高槻市北消防署西分署による救急対応についての講義と実演

④地震体験車による地震体験

●活動の成果

- ・校区で初めての取組みだったが、活動や学習を通じて、地域全体で、日々の危機意識を高め、日常の防災のあり方について深く考えることができた。
- ・高槻市立第四中学校区地域教育協議会(市教委委託)が主催し、自治会等と協働して、地域の子ども達が活動できる事業を実施することができ、地域の教育力向上に寄与することができた。

●課題と今後の取組方針

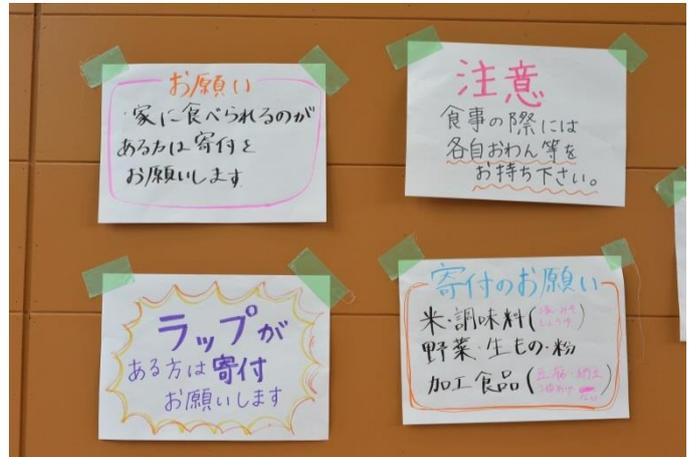
今後も、地域で防災について学びあえる機会として、いろいろな年代の人がそれぞれ主体となる防災の取組を継続する。

問い合わせ: 高槻市総務部危機管理室

072-674-7314(直通)

指定避難所【再現】訓練

(茨木市危機管理課)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・東日本大震災などのように、突発的に発生する広域・大規模災害では、行政や防災機関にも被害が及ぶことから、発災当初、行政等による避難所運営が難しい状況となる。そのため地域住民も発災当初から避難所運営に積極的に参画することが求められる。本訓練では災害時に地域住民による、指定避難所の開設・設営・運営をめざし学校職員・行政の手を借りずに行うことを目的とする。

●指定避難所【再現】訓練

- ・東日本大震災において、実際に避難所を運営した経験を持つ講師により、当時の事例を再現した。地域の自主防災会や消防団、学生ボランティア、小中学生などが参加した。
- ・サイレンとともに訓練を開始、一時避難場所へ避難し、その後、避難所にて、事前に実施した班分けに基づき、物資班や警備班などに分かれ行動した。班には様々な世代を配置し、多様な意見がでるよう工夫した。

(活動例)

物資班：① 自衛隊役から総務班へ物資の到着連絡があれば、総務班から物資班リーダーに無線連絡。

② 物資置き場へ搬入。

※置き場所は総務班と協議する。

③ カップ麺・アルファ化米・備蓄用水等、種類別に重ねる。

④ 管理台帳作成。

※種類・ケース数を白紙の用紙に手書きで記入。(紙とマジックは総務班)

⑤ 災害対策本部へ台帳の提出と報告。

※台帳を災害対策本部へ提出。報告後、災害対策本部から備蓄用水の配布準備の指示。

⑥ 備蓄用水を団体ごとに分けて、体育館正面入口に並べていく。

※訓練終了後、帰りに団体ごとにアルファ化米(炊き出し班が準備)と一緒に配布できるように準備。

●活動の成果

- ・避難所を再現し当時の状況を追体験することにより、被災経験がない多くの方々に災害時の状況や段取りを具体的にイメージしてもらうことができた。
- ・自主防災会の会長の男性は、「救命救急や初期消火などの訓練は毎年行っているが、今後は避難所の開設や運営の訓練も、今日の経験を生かしてぜひ取り入れたい。特に、子どもも役割を任されてやりがいを感じるだろうし、私たちも守りがいがある」と学びの成果を振り返り、地域主体の防災・減災意識を高めることができた。

●課題と今後の取組方針

- ・訓練を開始する際、訓練自体の説明に加え、今後は訓練のポイントや学ぶべきことを明示し、参加者のスタンスを明確にしていきたい。
- ・今後も地域が主体となって避難所再現訓練や運営訓練を繰り返し実施し、訓練で見えてきた課題を、地域での避難所運営マニュアルの作成や修正に反映できるよう、支援していきたい。

茨木市危機管理課

問い合わせ:072-622-8121(代表)

072-620-1617(直通)

災害医療救護活動訓練

(茨木市危機管理課)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・「茨木市医師会災害医療マニュアル」に基づく訓練の実践と検証を通じ、実効性のある防災組織体制の維持・整備と災害時の即応体制の確立を図る。
- ・災害医療について住民に周知し、地域との相互協力で応急救護所を設営、運営する。

●災害医療救護活動訓練

- ・南海トラフを震源域とした巨大地震が発生したという訓練想定のもと、避難所要員(市職員)が避難所を開錠・開設し、地域住民を中心として避難所を運営した。
- ・多数発生した傷病者に対応できるよう医師、歯科医師、薬剤師及び看護師により医療救護班を構成し、応急救護所として開設された葦原小学校にて、トリアージ等を実施。

●活動の成果

- ・様々な関係機関と連携して実施したことにより、実災害に近い形で訓練をすることができた。(自主防災会(小学生含む)、茨木市三師会、看護師(藍野病院、藍野花園病院)、大学生(藍野大学、藍野短期大学、立命館大学)、陸上自衛隊、消防職・団員、市職員)
- ・自主防災会や大学生が負傷者になるなど、住民参加型の訓練として実施したことにより、災害時のトリアージについて体感することができた。さらに、訓練見学席(100席程度)を設けたことでより多くの市民にトリアージについて周知することができた。

●課題と今後の取組方針

- ・災害医療の意識の向上はある程度達成できているが、対応技術は関係機関により差があった。今後も継続して災害医療についての訓練実施を検討する。
- ・避難所かつ応急救護所として指定されている施設について、地域住民による避難所の運営だけでなく医療救護班による負傷者の処置等を含めた運営を今後検討していく必要がある。

茨木市危機管理課

問い合わせ:072-622-8121(代表)

072-620-1617(直通)

災害ボランティアセンター運営訓練

(茨木市危機管理課)



○特徴的な取組内容

●目的

・大災害が起こった場合、被災地の復旧・復興に向け、市内外の多くのボランティアの活動が期待されるが、それには災害ボランティアセンターの迅速な設置・運営が求められるため、訓練を通してスムーズな運営を行うことを目的とする。

●災害ボランティアセンター運営訓練

・社会福祉協議会が主体となり、市内ボランティア活動者や地域住民、各種関係機関の協力を得ながら、ボランティア受付、送り出しといった災害ボランティアのコーディネートを中心とした訓練を実施した。

(活動例)

・ボランティア受付班

- ①ボランティア受付票の記入(個人受付・団体受付)
- ②ボランティア保険の加入確認等(加入手続き)
- ③名札作成

・総務・ニーズ班

- ①ボランティア依頼を受付(聞き取り)ニーズ票作成
- ②ニーズ票を基に活動指示書を作成
- ③活動指示書をマッチング班へ

・マッチング班

- ①活動指示書を掲示し、参加呼びかけ(ボランティア募集)
- ②ボランティア活動先の決定とリーダーの決定
- ③活動先への連絡

●活動の成果

- ・災害ボランティアセンターのシミュレーション訓練を実際の指定避難所である中条小学校で実施することができた。
- ・グラウンドにテントを張り、市職員や自主防災会から、訓練におけるニーズを災害ボランティアセンターに提出してもらった。また、学生ボランティアには、アルファ化米の作成補助や訓練のビラ配り、物資輸送訓練への参加など現地派遣を行った。
- ・現地で多くの関係機関と連携することにより臨場感ある訓練をすることができ、災害ボランティアセンターのイメージをつけることができた。

●課題と今後の取組方針

- ・今回はある程度決められた状況の中での訓練だったが、今後は外部からの情報収集や外部への情報発信を訓練の中で実施することで、災害ボランティアセンターの役割や機能を外部にも理解を深めてもらえる仕組みを検討していきたい。
- ・今回身につけた知識や意識を風化させないよう、今後も災害ボランティアに関する継続的な取組を検討する。

茨木市危機管理課

問合わせ:072-622-8121(代表)

072-620-1617(直通)

女性防災リーダーの育成やっています！！

(茨木市：市内全自主防災会対象)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・防災活動における男女共同参画の視点に配慮した取組を行うため、自主防災組織の運営を担い、方針決定過程へ参画できる女性リーダーの育成
- ・地域の自主防災組織で活動する女性たちの交流促進

●実施内容

- ・平常時の地域防災活動での女性リーダーの重要性や果たす役割について学び、実際の活動でいかせる取組の検討
- ・地域の女性リーダーの交流促進が図られるよう、情報や意見交換ができる場の提供

◇平成 26 年度

- 第1回 災害と女性～東日本大震災から学ぶ～
- 第2回 避難所運営についてのワークショップ
- 第3回 女性が安心できる地域づくりと防災の取組
- 第4回 災害時の食について

◇平成 27 年度

- 第1回 災害と女性～災害の経験から学ぶ～
- 第2回 災害時の要配慮者への対応について
- 第3回 避難所運営についてのワークショップ

第4回 災害発生時の食について

第5回 子育て世代と防災について

番外編 ぼうさいカフェ in いばらき

●活動の成果

- ・2年間で21団体より延342人が受講。
- ・アンケート結果から約75%の参加者が大変よかったと回答。
- ・地域の自主防災組織の方針決定過程へ参加する女性が増加した。
- ・本研修で受講した内容を参考に、参加者が地域で研修会を実施。
- ・本研修で受講した内容を自主防災組織に報告し、情報共有が図られた。

●課題と今後の取組方針

- ・本研修に女性の受講生を派遣できない自主防災組織が25%あったため、全自主防災組織から、女性が参加できるように働きかけを行う必要がある。
- ・若年層や子育て世代の参加者が少ないため、地域の自主防災組織に多世代が参加できるような工夫が必要

→上記課題について、今後は研修の実施だけでなく、女性や若年層が防災に対する意識が向上するような取組を行うとともに、多世代が自主防災組織に参加できるよう、地域の自主防災組織の活動について支援していく。

茨木市危機管理課

問合わせ:072-622-8121(代表)

072-620-1617(直通)

こどもの命を守るママとパパになる！

～子育て中の保護者への防災啓発イベント～

(茨木市：危機管理課と子育て関係団体が連携して実施)



講座の様子



講座終了後の様子

○特徴的な取組内容

●目的

家庭・地域での減災対策を促進するには住民の防災意識の向上を図ることが重要です。そのため、防災訓練等への参加が少ない子育て世代を対象とした防災啓発事業を実施。

●実施内容「こどもの命を守るママとパパになる」

講 師 Stand for mothers 防災ママ 三谷えみさん、辻由紀子さん

日 時 10月21日(金)①午前10時30分～午前11時②午前11時30分～正午
いばらき koko(子育て・子育て)フェスティバル^(※)において実施

場 所 茨木市立子育て支援総合センター(茨木市東中条町2-13 合同庁舎4階)

参加対象 保護者と就学前までの子ども

募集定員 各回 親子20組 参加人数 1回目 10組 2回目 5組

内 容 (1)講義 普段から備えておきたい備蓄品といざという時の行動
(2)展示 非常時持ち出し品

※「いばらき koko(子育て・子育て)フェスティバル」とは、本市の子育て関係団体が組織された「いばらき koko(子育て・子育て)フェスティバル」実行委員会が主催しているイベント

●活動の成果

・初めての取組だったが、参加者は講座終了後も熱心に講師に質問をしたり、展示物を見学していた。こどもの命を守らなければならないという保護者の強い思いを感じた。

●課題と今後の取組方針

・防災訓練等に参加が少ない対象者への防災啓発は今回のように他のイベントと同時開催することが効果的であるが、イベント内の他のプログラムとの調整が重要である。

・防災啓発を多様な世代に実施していくためには、危機管理部門だけでなく、庁内関係課や関係団体と連携し、実施することが必要である。

茨木市危機管理課

問い合わせ：072-622-8121 (代表)

072-620-1617 (直通)

外国人（留学生）と協働実施！ ～中学生が主体となった指定避難所【再現】訓練～ (茨木市危機管理課)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・東日本大震災などのように、突発的に発生する広域・大規模災害では、行政や防災関係機関にも被害が及ぶことから、発災当初、行政等による避難所運営が難しい状況となる。そのため地域住民も発災当初から避難所運営に積極的に参画することが求められる。本訓練では災害時に地域住民による、指定避難所の開設・設営・運営をめざし行政の手を借りずに行うことを目的とする。

●中学生が主体となった指定避難所【再現】訓練

- ・東日本大震災において、実際に避難所を運営した経験を持つ講師により、当時の事例を再現した。中学生、地域の自主防災会をはじめ、防災士、消防団、学生ボランティアなどが参加した。
- ・避難所は高齢者や子ども中心になることが多く、機動力があり、地域に根付いている中学生の活躍期待される。そのため、今回は中学生が主体となった避難所再現訓練を実施した。
- ・サイレンとともに訓練を開始、一時避難場所へ避難し、その後、避難所にて、事前に実施した班分けに基づき、物資班や警備班などに分かれて行動した。また、避難所には多様なニーズや視点が必要となることから、今回は大学の留学生にも参加いただき、訓練を協働実施した。

(活動例)

- 物資班:① 自衛隊役から総務班へ物資の到着連絡があれば、総務班から物資班リーダーに無線連絡。
- ② 物資置き場へ搬入。
※置き場所は総務班と協議する。
 - ③ カップ麺・アルファ化米・備蓄用水等、種類別に重ねる。
 - ④ 管理台帳作成。
※種類・ケース数を白紙の用紙に手書きで記入。(紙とマジックは総務班)
 - ⑤ 災害対策本部へ台帳の提出と報告。
※台帳を災害対策本部へ提出。報告後、災害対策本部から備蓄用水の配布準備の指示。
 - ⑥ 備蓄用水を団体ごとに分けて、体育館正面入口に並べていく。
※訓練終了後、帰りに団体ごとにアルファ化米(炊き出し班が準備)と一緒に配布できるように準備。

●活動の成果

- ・避難所を再現し当時の状況を追体験することにより、被災経験がない多くの方々に災害時の状況や段取りを具体的にイメージしてもらうことができた。
- ・外国人(留学生)の男性からは、「この訓練で、災害対応は私たちの責任であることを学びました。みんな一緒に状況に対処しなければなりません。驚いたことは、中学生がコミュニティに貢献できるということです。私の国で、生徒に災害の知識を伝えるだけでなく、生徒のための防災訓練を実施できればとても興味深いと思います。」との意見もいただいた。

●課題と今後の取組方針

- ・今後も地域が主体となって、避難所再現訓練や運営訓練を繰り返し実施していく中で、外国人や男女の視点など多様なニーズに応じた避難所運営ができるよう工夫していきたい。
- ・また、訓練を通じて確認できた課題については、地域での避難所運営マニュアルの作成や修正に反映できるよう検討していきたい。

茨木市危機管理課

問い合わせ：072-622-8121 (代表)

072-620-1617 (直通)

キャンプで学ぶ防災力！

～平成 28 年度秋のキャンプフェスティバル～

(茨木市危機管理課・青少年課)



○特徴的な取組内容

●目的

市(青少年課)が主催する子育て世代を対象とした事業に防災の要素を積極的に加えることで、普段防災訓練への参加が少ない世代への防災意識の向上を図ることを目的として実施。

●タイトル

- ・災害救助犬とセラピードッグの実演とふれあい
- ・消防職員による講演(山間部からの緊急通報について)
- ・救助工作車及び救助資機材の展示・実演
- ・キッズレスキュー体験(ロープ渡過)
- ・キャンプカウンセラーによる防災体験イベント

水消火器を使った消火訓練(水射的、消火体験装置ケスゾー)

火災を想定した煙体験

防災グッズの展示・啓発

火起こし体験

災害用備蓄食糧(アルファ化米)の試食

●活動の成果

- ・防災関係機関や市消防本部の協力を得たことにより、防災の要素を積極的に取り組むことができたので、参加者の防災意識向上のきっかけとなった。

・体験コーナーとして、実際に体感することのできるものが豊富だったため、参加者が楽しみながらも貴重な体験をすることができた。

●課題と今後の取組方針

各体験イベントは、普段体験できないものばかりになっていたため、利用者にとっても貴重な体験となった。展示や啓発だけでなく、自身が体験できるプログラムになっていたため、大人から子どもまで参加者全員が関心を持って、楽しみながら防災力を身に付けることができた。普段防災訓練への参加が少ない世代への防災意識の向上のために、今後もこのような形で他課と連携し様々なイベントの中で防災の要素を加えていくことを検討していきたい。

茨木市危機管理課

問い合わせ：072-622-8121（代表）

072-620-1617（直通）

みんなでつくる防災ひと・まちづくり報告会

(茨木市全域防災訓練等報告会) -平成 28 年度事業より-

(茨木市危機管理課：市内全自主防災会対象)



報告会の様子



○特徴的な取組内容

●目的

- ・平成 28 年度に実施した茨木市全域防災訓練、自主防災組織連絡会女性部会及び防災士部会の活動報告を行うことで、より多くの市民に防災まちづくりについて知ってもらい、一人ひとりの防災活動について考えるきっかけとする。
- ・さらに、各地域の先進的な取り組みについて情報提供することで、地域での防災活動の活性化と市全体の地域防災力の向上を図る。

●実施内容

「みんなでつくる防災ひと・まちづくり報告会」

日時:平成 29 年3月 23 日(木)午前 10 時から正午

場所:男女共生センターローズ WAM B2F WAM ホール

参加人数:121 人

参加団体:自主防災会等

[報告]①茨木市全域防災訓練ーシェイクアウト訓練ー

- ・平成 29 年1月 17 日に実施した市全域防災訓練について。

[報告]②みんなにやさしい避難所づくり体験ー女性による防災訓練ー

- ・平成 29 年2月 23 日に実施した訓練報告と、平成 28 年度女性部会の活動報告並びに今後の活動について

[報告]③茨木市自主防災組織連絡会 防災士部会の活動

- ・平成 28 年度防災部会の活動報告並びに今後の活動について

[報告]④各地域からの好事例

- ・小学校と連携した防災の取組
- ・中学校と青健協が連携した防災イベントの取組
- 自主防災会が小学校、青健協と連携して実施した防災訓練
- ・中学生や外国人と一緒にいった防災訓練
- ・地区福祉委員会と連携し実施した子育てママ達への防災啓発

[まとめ]減災と男女共同参画研修推進センター共同代表 浅野幸子さん

- ・「これからの防災ひと・まちづくりに必要なこと～本市取り組みへの講評とこれからの取り組みについて～」

●活動の成果

- ・市の現在の取り組み(全域防災訓練)について、知っていただくことによって、今後の方向性について、地域と共有することができた。
- ・地域の取り組みを地域住民自身から報告することで、受け取り側も共感しやすく、自助共助の意識をより高めることができた。
- ・先進事例を報告する場を設定することによって、地域同士が刺激しあい切磋琢磨できた。

●課題と今後の取組方針

- ・市主催の全域防災訓練を平成 27 年度から3か年で実施しており、報告会については情報共有のため平成 29 年度も継続して実施する。
- ・今後も、報告会等の情報共有の場を設定することにより、地域同士が刺激しあい切磋琢磨できるよう支援していきたい。

茨木市危機管理課

問合わせ:072-622-8121(代表)

072-620-1617(直通)

「チーム防災士いばらき」発！訓練指導レクチャー会

(茨木市危機管理課：市内全自主防災会対象)



プチ避難所運営訓練の様子



トイレワークの様子

○特徴的な取組内容

●目的

- ・地域住民(防災士)から地域住民(自主防災会役員)に防災訓練の指導を行うことによって、自主防災会役員だけではなく防災士自身の防災技術の向上、防災意識の高揚を図る。

●実施内容

- ・自主防災会役員は防災士から防災訓練の運営方法についてのレクチャーを受け、平成 30 年1月21日に実施予定の茨木市全域防災訓練で自らが指導できるよう取り組む。

(詳細)

「チーム防災士いばらき」発！訓練指導レクチャー会

日時:平成 29 年 9 月 30 日(土)、10 月1日(日)

場所:クリエイトセンター302・303 ほか

参加人数:延べ 431 人

参加団体:

【運営】茨木市危機管理課

【指導】防災士、立命館大学防災共育サークル attelle、国際ボランティア学生協会 ivusa

【参加】自主防災会

《レクチャー内容》

- ①プチ避難所運営訓練、②トイレワーク、③搬送訓練、④ロープワーク、
- ⑤応急手当ワークショップ、⑥持ち出し品なあに？クイズ、⑦防災資機材説明、
- ⑧消火訓練

●活動の成果

・ただ防災の指導を受けるだけでなく、自らが教える立場になることにより、防災技術の向上、防災意識の高揚が図られた。

・地域住民(防災士)から地域住民(自主防災会役員)に教えることによって、自助・共助の意識を高めることができた。

※平成 30 年1月21日には、茨木市全域防災訓練を実施し、その中で地域住民(自主防災会役員)から地域住民(一般参加者)に教えることによって、さらなる、自助・共助意識の向上を目指す。

●課題と今後の取組方針

・茨木市では平成 27 年度から防災士育成事業により防災士の資格取得への補助を行っており約 40 人の防災士が誕生している。そして、平成 28 年度から資格取得者へのフォローアップとして、防災士部会(年間約7回)を実施しており、その部会の位置づけで今回のレクチャー会を実施した。

・今後もフォローアップとして、防災士部会でのスキルアップや、防災士同士の情報共有をしていくことによって防災技術や知識を高め、各々の地域で訓練の仕方や知識の継承が行えるよう支援していきたい。



訓練指導レクチャー会集合写真

茨木市危機管理課

問い合わせ:072-622-8121(代表)

072-620-1617(直通)

自主防災組織連合会研修！！

(富田林市消防本部)



○特徴的な取組内容

●目的

・岩手県大槌町安渡(あんど)町内会では、国が整備促進を図っている「地区防災計画」を既に策定し、その計画の実効性を検証するため、繰り返し防災訓練の実施や、直後に検証を行うなどの取組が自主的・先進的であることから、平成 27 年 3 月に開催された「国際連合会議」で活動報告を行っている。そのような中、本市も南海トラフ等を震源とする大規模地震災害の懸念や、大雨による土砂災害危険箇所も多く存在することから、自主防災活動の活性化を図る必要があり、その先進的な取組を学ぶことで本市地域防災力の向上を図ることを目的とした。

●研修内容

- ・岩手県大槌町を訪問し、大槌町安渡町内会長から、被災時の状況や策定した地区防災計画及びそれに基づいた住民の活動等を学んだ。
- ・大槌町職員からは、被災当時の状況や住民の行動、復旧・復興における住民の苦悩、また東日本大震災から約4年半が経過する中での現状を視察し、被災地への理解を深め、今後の支援につなげることとした。
- ・大槌町の早期の復興を祈念して、町内会長と共に祈念植樹を行った。

●活動の成果

・研修に参加された方々の意識改革

本市では、近年大規模災害に遭遇していないことから、「地域としての防災への取組の重要性」を再認識することが出来た。

・地域力の重要性

今回の研修では、避難所や仮設住宅での避難生活を円滑に行うため、地域コミュニティの重要性を改めて認識し、「自助」、「共助」の重要性を学ぶことが出来た。

●課題

・被災地でも課題となっている、防災に対する意識の風化を防ぐため、「高い意識の継続」を、どのように後世に伝えていくのか。

●今後の取組方針

- ・今回の研修を核として、各地域において自主的な取組を継続し地域防災力の向上を図る。
- ・市地域防災計画とリンクした「各地区防災計画」の策定及び、住民への周知を行う。
- ・計画が出来れば終わりではなく、繰り返し検証を行い、より実効性のある計画を地域全体で策定する取組を進める。

富田林市消防本部 警備救急課

問い合わせ：0721-23-0119(代表)

0721-23-1125(直通)

避難所開設・運営マニュアルの作成

(寝屋川市：校区自主防災協議会)



○特徴的な取組内容

●目的

・阪神・淡路大震災、東日本大震災で、行政のみの避難所運営には限界があることが明らかとなったことから、大規模災害時に避難所を円滑に運営するため、地域の皆さん、学校関係者、行政職員の3者による協力体制が重要となる。

そのため今後、高い確率で発生すると言われている南海トラフ巨大地震に備え、地域住民による避難所の開設・運営を円滑に行うためのマニュアルを作成する。

●避難所開設・運営マニュアルの作成

・このたび、有識者を交えた寝屋川市防災会議専門委員会議の中で検討を重ね、避難所開設・運営マニュアル(ひな型)を作成しました。今後、小学校区自主防災協議会、自治会等を中心としたメンバーでさらに検討を重ね、各小学校区の地域の実情に応じた、地域版の避難所開設・運営マニュアルの完成を目指す。

(マニュアルの特徴)

- ① 避難所開設・運営マニュアル(ひな型)については、地域の実情に応じた、地域であらかじめ決めておく事項や確認しておく事項が記入できるよう、「穴埋め方式」としている。
- ② 災害時に地域の皆さんが避難所運営を迅速に行うことが出来るよう、避難所の開設から閉鎖までを行動ごとにフロー図等を用いて、わかりやすく工夫を凝らした。
- ③ 地域版の避難所開設・運営マニュアルを完成させるために、各小学校区ごとに地域の皆さん、学校関係者、行政職員の3者が話し合う、ワークショップ方式で取組んでいく。

●活動の成果

- ・地域の実情に応じた避難所開設・運営マニュアルを完成させるため、各小学校区自主防災協議会、自治会等が中心となり、地域で取組んでもらうことの意識付けがされた。
- ・行政のみに頼らず、地域が議論してマニュアルを完成させることで、よりスムーズに避難所の開設・運営を行うことが出来る。

●課題と今後の取組方針

- ・全小学校区に避難所開設・運営マニュアルを完成させる。
 - ・避難所開設・運営マニュアルに沿った訓練の実施とマニュアルの検証。
- 上記の課題を解決するため、行政として、地域防災力の向上につながるよう必要な支援を行っていく。

寝屋川市危機管理室

問い合わせ：072-824-1181(代表)

072-825-0334(FAX)

地域防災ネットワークプロジェクト訓練！！

(松原市：地域防災ネットワークプロジェクト協議会)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・災害発生時に地域の町会連合会、小学校、消防団、婦人防火クラブ、自主防災組織等が互いに連携をとり、協力し合って地域ぐるみの安全確保を図るため、小学生のうちから防災に対する意識の高揚を図ること。

●シェイクアウト訓練→避難訓練

- ・緊急地震速報を合図にシェイクアウト訓練(命を守る行動)を行い、その後、避難訓練を行う。

●煙体験

- ・煙体験テントを使用し、煙中での避難訓練を体験する。

●初期消火訓練

- ・水消火器を使用し、初期消火訓練を行う。

●心肺蘇生法

- ・心肺蘇生法及びAEDの使用法を訓練する。

●防災資機材見学

- ・市内公立小学校に設置されている防災倉庫内の資機材を展開し、それぞれの説明を行う。

●特殊車両見学等

- ・防災訓練車・消防車・特殊車両等を見学

●活動の成果

- ・小学校の日曜参観に併せて実施することにより、子育て世代も訓練に参加することができる。
- ・官民一体の訓練を行うことで、特に地域間の顔の見える関係作りができる。
- ・防災意識(自助・共助)の向上

●課題と今後の取組方針

- ・年間3校の実施であることから、実施済校及び未実施校での地域ぐるみの防災訓練の実施。
- ・発災初期、行政の支援には時間を要することから、本訓練のマニュアルを作成し、地域主体となって訓練が運営できること。

松原市市長公室危機管理課

問い合わせ:072-334-1550(代表)

072-337-3151(直通)

南河内地域自主防災組織意見交換会

(南河内地域危機管理担当部局・大阪府富田林土木事務所)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・南河内地域の各市町村で自主防災組織など地域の防災活動に携わる方が一同に集り、顔が見える関係を築くこと。
- ・他の市町村の地域との情報交換が今後行いやすくなり、各地域で新たな防災活動が取り組まれ、地域防災力の更なる向上に繋がること。

●取組内容

大阪府富田林土木事務所と南河内地域危機管理担当部局が連携し、平成28年2月16日に南河内府民センターにて開催した南河内地域自主防災組織意見交換会。

<当日のプログラム>

①大阪府危機管理室による情報提供等

②事例発表

- ・河内長野市自主防災組織(サニータウン自治会)
- ・河南町自主防災組織(大宝地区自主防災ネットワーク)

③写真展示及び意見交換

- ・各自主防災組織の活動風景などの写真を展示し、それを見ながら意見交換を実施。

●活動の成果

- ・南河内地域の9市町村の18自主防災組織等(約30名)と危機管理担当部局の職員(約20名)が参加。

- ・ 本地域における自主防災組織の中でも特に積極的な活動を行っている2団体の活動事例を紹介し、他の自主防災組織等における防災意識の向上と活性化を図った。
- ・ 写真展示会を通じて意見交換を行うことで、市町村の枠を越えた自主防災組織同士の横のつながりを構築する機会となった。

● 課題と今後の取組方針

- ・ 本意見交換会は管内自主防災組織から要望をうけて開催。
- ・ 自主防災組織の活動内容や取り巻く課題は、市町村や防災組織ごとに様々異なっていることから、各々の組織がより活発な活動を行うために、今後も意見交換会等を積極的に支援していく。

大阪府富田林土木事務所
地域支援・企画課 地域支援・防災グループ
問い合わせ：0721-25-1131(内線 203)

パニック震災訓練

(大阪市住吉区：山之内スマイル協議会・

震災ネットワークファイル作成委員会)



○特徴的な取組内容

●目的

・いつ発生するか予測できない甚大な災害に対して、「災害に強い町」を作るには、資機材の備蓄やマニュアルの準備と並行して、様々なパニックに柔軟に対応できる、人材の養成と技術の伝承を行うことを目的とする。

●パニック震災訓練

- ・出来るだけシナリオのない震災訓練を企画し、地域防災リーダー、青年救助班、女性防火クラブ、地域住民、中学生、PTA、消防署、日本赤十字社、住吉区社会福祉協議会、区役所等が参加した。
- ・訓練当日(平成 26 年 10 月 5 日)の午前 8 時 30 分に地震が発生し、甚大な被害が出たと想定。地域住民は一時避難所に集まり、地域防災リーダー等が災害時避難所へ誘導する。「避難者入退所届」を記入し、避難人数を把握する。その後、各種訓練を実施。

(訓練内容)

- ・可搬式ポンプによる初期消火訓練
- ・バケツリレー、消火器訓練
- ・ダンボール材、コンパネ、長椅子等を利用した簡易ベッドの組立、簡易トイレ・プライベートルームの組立
- ・チェンブロックでの救出訓練、階段避難車操作
- ・ジャッキ・エンジン式チェーンソー・手のこ・手斧・かけや、バールの利用訓練
- ・スモークテント体験
- ・マーキーテントの張り方、発電機の操作等の訓練
- ・搬出搬送方法の実習、応急手当、三角巾の実習
- ・心肺蘇生、AED の訓練
- ・炊出し訓練

●活動の成果

- ・数箇所の一時避難所から災害時避難所に指定している小学校に随時集まり、受付を行うことで実際に災害が起こった時の混乱を体験することができ、その混乱を最小限に抑えるための具体的な方法を考えるきっかけとなった。
- ・訓練当日は、乳幼児や車椅子を使用している方も参加し、避難所生活に必要な配慮を聞くことができた。
- ・簡易ベッド・トイレの組立や炊出し等を中学生が積極的に行っていた。災害時は自分たちにもできることがあるという自信が付き、若い世代の防災意識の向上につながった。

●課題と今後の取組方針

- ・今後も地域住民が参加しての避難所開設訓練や、各種訓練を行うことで、実際に災害が発生した時も地域住民が主体となって避難所の開設・運営を行えるように支援していきたい。

大阪市住吉区地域課

問い合わせ:06-6694-9734(直通)

06-6692-5535(FAX)

校区自主防災会による瓦礫救出訓練！！

(堺市東区：東区自主防災会)



○特徴的な取組内容

●目的

・阪神・淡路大震災・東日本大震災において、地域の防災機関である消防機関がほとんど機能を果たすことができなかったことに鑑み、公的な防災機関に頼ることは難しい状況になる。そのため「自分たちの命は自分たちで守る」を合言葉に、身近な資器材を用いて人命を救出することを目的とする。

●瓦礫からの救出訓練

・地震等による瓦礫の生き埋めは人体を圧迫して発症するクラッシュ症候群(挫滅症候群)が最も危険なため、1分、1秒、でも早く救出することが求められる。そこで、ダミー(人命)を用いて簡易な瓦礫を再現し、車のジャッキや滑車など身近な資器材を用いての救出訓練を実施し、資器材の使用方法や家屋の破損した柱を用いてこの原理を工夫し瓦礫を排除して、ダミーを救出する訓練を実施した。

●活動の成果

・自らが体験することで、身近な資器材の使用方法やこの原理で創意工夫することを学ぶ機会となり、コミュニティを通しての団結力の大切さと個人の小さな力では活動することができないことも団結力をもってすれば活動が可能になることを身を持って体験することで、地域主体の防災・減災意識を高めることができた。

●課題と今後の取組方針

・瓦礫からの人命救助は、災害現場によれば活動が瓦礫を更に崩落するリスクがあるため、周囲の状況を把握し危険予知を五感を通して判断することや、救助スキルを高めることも必要である。今後、段階的に危険予知訓練や救助スキルを高める訓練を実施していきたい。

堺市東区の9校区自主防災会

問い合わせ 東区役所自治推進課

防災担当 上田

TEL: 072-287-8122

防災学習訓練

(堺市東区：日置荘自主防災会)



○特徴的な取組内容

●目的

災害時における危険を認識し、日常的な備えを行うとともに、状況に応じた確かな判断の下に自らの安全を確保するための行動が出来るよう防災について理解する。また周りの人の安全に配慮し、簡素な応急手当等が出来るようにすることを目的とする。

●「日置荘小学校 4年生の防災学習」

(訓練内容)

- ・起震車による地震体験
- ・応急手当(三角巾の使い方、使用方法)
- ・AED使用法及び心肺蘇生法

●活動の成果

・災害時に防災の担い手となる小学生の視野を広げ、防災学習を通して災害時に地域連携の自助、共助効果が発揮されることが期待でき、防災力の向上及び防災意識を高めた。

●課題と今後の取組方針

災害に対して、できること、できないことを踏まえた上で、何を伝え学ばせるべきかを明確にし、家族や地域と共に災害に立ち向かう態度や防災に関する基礎知識の学習を行うと共に、地域防災に若手の参加を目指す。

5月に第3回ジュニア防災リーダーの育成を実施予定。

タオルを活用した安否確認訓練①

(岸和田市：土生滝町自主防災会)

○特徴的な取組内容

●目的

- ・災害時に、各家庭の被災状況を迅速に確認すること

●安否確認訓練

- ・災害時に、家族全員が安全であれば「白色のタオル」を、家族の中に被災者がいれば「色のついたタオル」を門扉等にくくりつける。
- ・町内における家族の状況と緊急時の連絡先を確保するため、住民台帳を作成する。台帳は隣組組長が保管し、災害時以外は使用しない。

- ①午前8時 55 分地震発生、土生滝町会館に災害対策本部を設置
- ②町会長から副会長を通じて調査班担当町会役員へ町民の安否確認を指示(緊急時連絡網による)
- ③各調査班担当町会役員から各隣組組長に町民の安否確認を指示
- ④各隣組組長と副組長が隣組員の住居を回り、タオルの色により安否確認を実施
- ⑤各隣組組長が組内被災状況を集約し、調査班担当町会役員へ報告
- ⑥集約した被災状況により、要支援世帯への支援活動の実施(救出班へ指示)
- ⑦被災者の一時避難場所への避難誘導(誘導班へ指示)

●活動の成果

- ・タオルの色分けにより、各家庭の安否確認が迅速に完了できた。
(訓練開始より 35 分で安否確認完了)

●課題と今後の取組方針

- ・安否確認チェックリストとしての隣組名簿(住民台帳)が必要。
- ・各班の避難集合場所での確認事項を決めておく(マニュアルの作成)。
- ・安否確認のタオル掛けを全世帯に周知徹底する(訓練前の放送でも再度お知らせする)。

岸和田市危機管理課

問い合わせ:072-423-2121

072-423-9437

タオルを活用した安否確認訓練②

(岸和田市：太田町震災等緊急対策本部)

○特徴的な取組内容

●目的

- ・災害時に、各家庭が無事であることを迅速に確認すること

●安否確認訓練

- ・避難訓練の際に、各家庭の門扉または玄関扉にタオルをかけて頂くことで、各家庭が無事であることを示してもらおう取組。
- ・タオルがついていない家庭は、個別に安否確認を実施する。

平成 27 年9月6日(日曜日)に訓練を実施。

場所:太田町町会館、旭公園

想定:午前9時5分、紀伊半島沖を震源とするマグニチュード 8.5 の地震が発生
岸和田市震度6弱、町内で一部の家屋倒壊と火災、負傷者発生

- ①町内放送により、サイレンで地震発生の合図を流す。
- ②町内の対策本部を設置する。
- ③無事な家庭は門扉または玄関扉へタオルをかける。
- ④班長は、班内の安否確認(タオル確認含む)および被害状況を確認し、対策本部へ報告する。
- ⑤情報収集・伝達班は、福祉担当、老人会と連携し、町内の要支援者の安否確認を行う。

●活動の成果

- ・各家庭の安否確認が迅速に完了できた。

●課題と今後の取組方針

- ・安否確認のタオル掛けを全世帯に周知徹底する(訓練前の放送でも再度お知らせする)。

岸和田市危機管理課

問い合わせ:072-423-2121

072-423-9437

「いざ」よりも「日々」を大切に^{☆☆☆☆}した防災福祉活動^{☆☆☆☆}

(岸和田市：大阪府営荒木住宅（星ヶ丘町会）)



○特徴的な取組内容

●目的(特徴)

- ・町内会の各団体による行事や活動をお互いにサポートする体制づくりとして、「リビングほしがおか」を開設
- ・「いざ よりも 日々を大切に！」「まちづくり・福祉活動の延長が防災活動！」をモットーに、町内の様々な日々の活動を通し、お互いに顔の見える関係を築くことで避難行動要支援者支援等を実践

●取組内容

- ①小地域ネットワークの活動「一人を大切に、安心とふれあいの町づくり」
 - ・毎月1回ふれあい訪問(高齢者宅への定期的な訪問活動)を行い、顔の見える関係づくりを実践
 - ★避難行動要支援者名簿を活用した見回りをふれあい訪問と併せて実施
- ②和み会(老人クラブ)の活動「高齢者の見守りは高齢者で、貴方も私も皆元気に」
 - ・カラオケ・折り紙教室・ラジオ体操・朝市・美化活動などの日頃の活動を単なるレクリエーションとしてとらえるのではなく、福祉活動として位置づけ積極的に実施
- ③子供の安全見守り隊の活動「地域の子供は地域の宝、皆で育てる未来の使者を」
 - ・七夕笹飾りや小学校の校門前における見守り活動など、青少年の育成のための活動を展開
- ④災害対策委員会の活動「いざ、よりも 日々が大切 防災は、自助と共助の心から」
 - ・年1回の避難行動要支援者名簿登録の受付(平常時の地域への名簿情報提供についての同意書にかかる説明、記載補助を実施。その後委員会より書類を一括で市に提出)、防災訓練の実施、及び他地域への研修視察

●活動の成果

- ・「リビングほしがおか」がまちづくりや福祉・防災の発信拠点になるとともに、地域内で活動する各団体の役割が幅広くなるなど地域のつながりが強化された
- ・以前、住宅内で火災が発生したときに、日頃の訓練を活かし、逃げ遅れた高齢者の救助救出、付近住民の避難誘導、安否確認、炊き出しを迅速に実施

●課題と今後の取組方針

- ・高齢者が高齢者を支援できる仕組みづくりを充実させる
- ・防災面を意識しながら取り組んでいる日頃の地域活動を、今後もより一層、「だれも排除しない」精神で充実させていく

星ヶ丘町防災福祉コミュニティ

「リビングほしがおか」

結 成：平成 20 年

規 模：650 世帯、1,300 人

問い合わせ：岸和田市危機管理課

072-423-9437

平成 27 年 9 月掲載

独自の状況付与カードを活用したHUG訓練

(吹田市：五月が丘地区)

オリジナルのカード
を作成されました。



○特徴的な取組内容

●目的

- ・自主防災組織が自分たちの地域の避難所、想定避難者数など地域にあわせた状況付与カードを使い、避難所で起こる多様な出来事を、平面図上で疑似体験することで、実際の災害に対応できるようにすること。また、地域課題を見つけ実践に活かすことを目的とする。

●HUG訓練

- ・独自の状況付与カードを作成し、避難所となる体育館の図面を囲みHUG訓練にて活用。
- ・「女子更衣室」「授乳室」「保育室」の設置といった、女性の視点を盛り込みつつ、様々な状況に対応できるように訓練を実施した。

●活動の成果

- ・さまざまな条件を抱えた避難者をどのように配置するか、ワイワイと楽しく議論する中で、災害をより具体的なものとしてとらえ、模擬体験することができた。

●課題と今後の取組方針

- ・自主防災組織がHUG訓練を通じて得たことを、避難所運営マニュアルや避難所設営訓練につなげていけるよう支援していきたい。
- ・今後もそれぞれの地域の自主防災組織にも取り組んでもらえるよう進めたい。

吹田市危機管理室

問い合わせ:06-6384-1231

06-6384-1753

五月が丘地区防災委員会

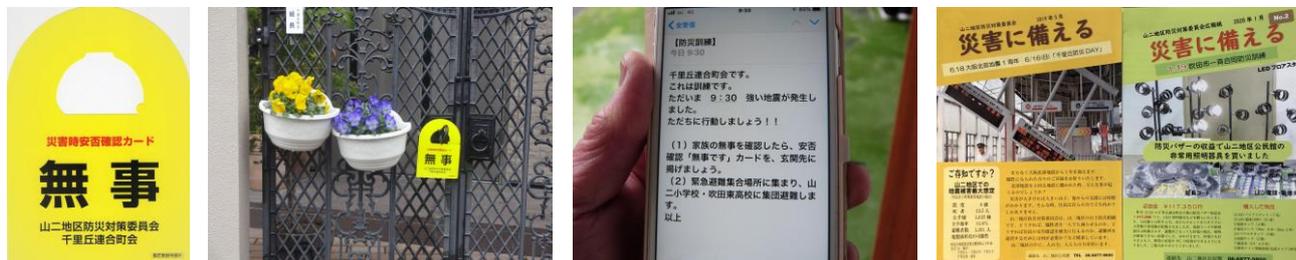
結 成:平成 8 年(1996 年)3 月 23 日

活動内容:防災訓練、防災講習会資機材点検、家庭内点検、

資機材備蓄、意識調査、防災セミナー参加

災害に向きあい災害に備える千里丘を！

(吹田市：山二地区防災対策委員会)



○特徴的な取組内容

●目的

千里丘は丘陵地で洪水などの心配が少ない地域で住民の防災意識は高くなかったが、平成30年の大阪府北部地震において、震源地に近く、家屋の瓦が落ちるなどの被害も出た。このことが、地域住民の防災意識を高めるきっかけとなり、「災害に向きあい災害に備える千里丘を！」との目的で活動の改革を始めた。

●主な活動

①災害時安否確認カード

連合町会の加入の有無に関わらず全世帯に配付。カードの製作費用については、地区内に設置する自動販売機の収益の一部を地域還元してもらおう形で財源を確保。

②地区一斉メール

防災スタッフ間の LINE グループ化の一方、SNS を利用しない方も情報が得られるように、地区内一斉メールを配信。

●活動の成果

①災害時安否確認カード

地区 5000 戸に配付。防災訓練時(H31.1.20/R1.6.16/R2.1.19)には、災害時安否確認カードを玄関先に一斉に掲げる取組みを展開し、約半数の世帯が自宅の扉や門に掲げた。

②地区一斉メール

R2.1月末時点で845件の登録があり、当面 1000 件の登録をめざしている。

●課題と今後の取組方針

地域の方々に積極的に継続的に発信していく事が大切と考え、広報紙の発行・ボランティアによる全戸ポスティング、防災バザーの呼びかけなど、防災講座の開催、避難所運営マニュアルづくりなど様々な方法で活動の普及に力を入れている。また、活動を広げていくために若い世代にも声掛けしたり、中学生に避難訓練のスタッフ参加を呼び掛けたり、学生寮にも声掛けするなど積極的に呼びかけており、今後、このような取り組みが、一つのモデルとなり市内全域に広がることが期待される。

吹田市山二地区防災対策委員会

結成:平成20年

規模:約4300戸

問合せ先:吹田市総務部 危機管理室

遠助交流開始

(高槻市：高槻ニューハイツ自治会自主防災会)



○特徴的な取組内容

●目的

・災害発生地での自助、共助(近助)の相互援助活動は最も重要だが、広域災害では近くて何らかの被害を被っている者同士の活動には混乱や制約がある。しかし、被災していない遠隔地からの援助(遠助)は非常に効果的であるとのことから、遠隔地の自治体相互間における災害時相互援助の協定があり、本自主防災会でも取り入れる事にした。

・鳥取県西部地震の震源地で被災の経験を踏まえて、その後の防災体制・機材の整備や防災意識の啓蒙に貢献した事で、平成 26 年度「防災功労者防災担当大臣表彰」を受賞した黒坂地区自主防災委員会との交流から多くを学ぶことができ、防災活動の向上を図れると判断し、鳥取県日野郡日野町黒坂地区自主防災委員会との姉妹交流を行うことに決定した。

●実施内容及びこれからの予定

〈H27 年 4 月 26 日(日)~27 日(月)〉日野町訪問

災害時相互援助(遠助)連帯の可能性を検討するため、現地を訪問し、防災トップの町長初め関係者と面談した。

〈26 日〉遠助交流の趣旨説明と相互の活動を紹介

出席者：高槻ニューハイツ自治会自主防災会 会長、副会長 A・B、教育宣伝部 計 4 名

黒坂地区自主防災委員会 会長、第 3 区会長、日野町日本赤十字奉仕団 計 3 名

〈27 日〉日野町役場へ挨拶

出席者：高槻ニューハイツ自治会自主防災会 会長 副会長 A 計 2 名

日野町役場 町長、総務課防災担当者 計 2 名

防災活動を通じて姉妹交流活動を実施する事について快諾を得た。

また、日野町としても町長からも、協力・応援するとの力強い言葉もいただいた。

〈10月4日〉日野町全町一斉防災訓練の参加・調印式(予定)

H12年10月6日に発生した鳥取県西部地震を忘れないために、毎年10月の第1日曜日に、全町一斉防災訓練を実施していることから、訓練に高槻ニューハイツ自治会自主防災会より20名程度で参加させてもらい、自主防災会間における災害時相互援助の覚書の調印式も同日に行う事を計画している。

〈12月20日〉防災講演会を開催(予定)

今年12月17日に高槻ニューハイツ自治会自主防災会が10周年を迎えるにあたり、鳥取県防災アドバイザーでもある黒坂地区自主防災委員会会長を招き、高槻ニューハイツ自治会の集会場にて講演会を企画している。

●活動の成果

- ・防災に関する訓練を消防署の安全管理等のもと、自主防災会会員が定期的に指導することで、自治会会員の皆さんの防災活動への関心度が向上した。
- ・容易に準備が可能な防災グッズの紹介をはじめ、実際に被災された黒坂地区自主防災委員会の方々の経験に基づいた知識や心構えなど、多くのことを学び、限られた地域だけでの防災活動では得ることができない貴重な体験をすることができた。
- ・高槻ニューハイツ自治会自主防災会メンバーの自主防災活動への取組みに対する士気が上がり、防災意識の向上につながった。

●今後の取組方針

- ・お互いの活動などの情報交換の充実を図っていくようにする。
- ・災害発生時、調印書(覚書)に基づき「何が必要か」「何が出来るか」について連絡を取り合い、互いに無理のないように、遠助を発展・向上させていき、末長く交流活動をしていく。

高槻ニューハイツ自治会自主防災会

結成:H17年12月17日

規模:285世帯

地理:山沿い

問い合わせ:高槻市総務部危機管理室

072-674-7314(直通)

近隣組織への指導活動 (高槻市：東五百住さつき自主防災会)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・近隣の介護施設や自治会、自主防災会より要請を受けて、応急手当普及員と防災委員がチームになって心肺蘇生や三角巾による応急手当の出前指導を行っている。
また、情報交換やお互いの切磋琢磨の中で、レベルアップと結束を図ることを目的にしている。

●活動内容

- ・介護施設での介助者や訪問先での緊急時を想定して、施設に携わる職員やパート、訪問ヘルパーに対して定期的に指導を行っている。
- ・隣接する自治会、自主防災会(4ヵ所)に出向き普通救命講習会や三角巾による止血法、固定包帯法などの応急手当の指導を定期的に行っている。
- ・恒例になっている年1回の総合訓練(個別訓練の集合体)に隣接する各種団体に案内状を配布し、お互いのレベルアップを狙って合同による訓練を行っている。

●活動の成果

- ・JR西日本あんしん社会財団からAED訓練器と訓練用人形の提供団体を公募されていたが、過去の活動含めて資料を提出し、地道な活動や今後の計画などが審査され、評価をいただき訓練資機材を授与していただいた。
- ・介護施設に応急手当などの指導を行っていることもあり、介護施設から当該施設を東五百住さつき自主防災会の災害時の一時避難所として使用する同意を得た。

●課題と今後の取組方針

- ・現在、交流を図っている自治会、自主防災会とは継続した活動を行うとともに、今後は大災害に備えて円滑な避難所運営が出来るよう地区の組織と事前協議を行い、顔の見える関係を築きながら役割分担や運営方法などを確認し、共有を図っていきたい。

東五百住さつき自主防災会

結成：H20年4月1日

規模：210世帯

地理：一級河川の周辺

問い合わせ：高槻市総務部危機管理室

072-674-7314(直通)

災害時避難行動要支援者訓練 (高槻市：東五百住さつき自主防災会)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・各家庭で作成いただいた「世帯台帳」の登録をもとに、避難行動要支援者の情報を把握し、地域における普段からの交流と家族含めた体制づくりが大切である。
避難行動要支援者のハンディキャップの内容と程度を理解し、避難する際にも、その人に合った安全対策とケアの体制を作り上げることを目的に活動をしている。

●活動内容

・一声見守りによる訪問活動

主に高齢者(75歳以上の一人暮らし)宅を自治会役員および防災委員が手分けして毎月1回訪問し、話し相手になることや、救急医療情報キット(カプセルを冷蔵庫に収納)が正しく使われているか、住宅用火災警報器が設置されているかなどを確認に回っている。

・地震想定での避難訓練

避難所や避難経路の周知を行うため、昼間・夜間を問わず実施している。また、避難行動要支援者の搬送方法の習得として、実際に車椅子やリヤカーなどを使って訓練をしている。

・風水害を想定した避難訓練

水害時は原則、垂直避難を推奨しているが、想定外のゲリラ豪雨への対策として、浸水箇所にロープを張り、カラビナを装着して徒手搬送で通過する訓練を実施している。

●活動の成果

- ・自主防災会の活動に理解を示してくださる会員が増え、徐々に訓練にも参加者が増加傾向になってきている。

●課題と今後の取組方針

- ・今後は単発ではなく「継続は力なり」を目標に活動を進めて行きたいと考えている。

東五百住さつき自主防災会

結成：H20年4月1日

規模：210世帯

地理：一級河川の周辺

問い合わせ：高槻市総務部危機管理室

072-674-7314(直通)

「支えあい・助けあい」の地域づくりを！

(高槻市：冠地区防災会)



聴覚障がい者のお話し



非常食の炊出し（揃いのユニフォーム姿で）

○特徴的な取組内容

●目的

- ・災害時における安全かつ迅速な避難訓練を行う。
- ・「高槻市災害時要援護者支援事業」に鑑み、関係諸団体の協力を得て、要援護者支援のあり方を学ぶ。
- ・「防災・減災は地域全体の課題」との観点から、防災会未加盟自治会へ参加を呼びかける。

●訓練内容・・・自らが工夫し、自前の力で！

- ・避難訓練では、冠地区防災会で検討・確認した避難経路を記載した「防災マップ」を全戸配布し、これに基づき、自治会ごとの集合・安否確認・避難行動を行った。
- ・第 1 部訓練では、防災資機材展示・消火訓練・救出救護訓練などを、防災指導員講座受講者を中心に、自力で行った。

●訓練内容・・・地域の支えあい・助けあい

- ・第 2 部訓練では、参加者全員が一堂に会する中、災害時要援護者支援について、視覚・聴覚・精神の障がいのある方が、要援護者の特徴と必要とされる支援のあり方を、自らの体験談を交え、話された。
- ・地区福祉委員会などの協力を得て、災害時の炊出しを想定した非常食（アルファ化米と豚汁）の試食を行った。

●活動の成果

- ・当地区においては、2 年半ぶりの防災訓練であり、「どのような訓練とするか？」が大きな課題であった。そのため、防災会役員を中心に、実行委員会を結成し、上記の 3 つの目的のための訓練となるよう、創意工夫を凝らした。
- ・「防災マップ」の配布により、「避難経路を知っている」とのアンケート回答は、90%と高い数値であること、また、用意した資料数を超える参加者であり、地区における防災意識の高さを実感した。少数ではあるが、未加盟自治会からの参加もあった。
- ・災害時要援護者の体験談は、参加者から、「貴重な話を聞くことができた。」との感想が寄せられ、「地域における支えあい・助けあい」の大切さを再認識させるものであった。

●課題と今後の取組方針

- ・今回の訓練を検証し、28 年 11 月に実施予定の「高槻市市民避難訓練」をより実りあるものとするため、準備を進める考えである。

冠地区防災会

結 成 平成 26 年 4 月 19 日

規 模 1,392 世帯

地 理 淀川流域

問い合わせ 高槻市総務部危機管理室

072-674-7314(直通)

わが家は大丈夫！黄色いボード作戦

(茨木市：葦原地区自主防災会)

各自治会会員のみなさんへ

葦原地区自主防災会

10/19 防災訓練

「わが家は大丈夫！黄色いボード作戦」

「わが家は大丈夫！黄色いボード作戦」とは…

震度5強以上の地震が起った時

「わが家は無事です」という意味をこめて、

外から見える場所(門、玄関等)に黄色いボードを
設置するという運動です。



黄色いボードを設置することにより、災害時の安否確認が容易
になり、地域の救助活動の効率化を図ることができ、より多くの
人命を救うことが可能になるというものです。

今回は、ボードではなく黄色の画用紙を防災訓練当日
(10/19)、朝8時までに各家庭の玄関等に設置頂き、
自治会で各家庭を廻って設置数を確認して頂くことで安否確認
訓練とさせていただきます。(例、ひもを通しひっかける。セロテープでとめる。)

※この黄色の画用紙は今回の防災訓練にのみ使用するものですので、
10/19 正午には、取り外して頂き処分して下さい。

☆各家庭での設置、ご協力お願い致します。

○特徴的な取組内容

●目的

- ・災害時の安否確認を容易にし、より多くの人命を救うこと

●黄色いボード作戦

- ・震度5強以上の地震が起こったとき、「わが家は無事です」という意味を込めて、外から見える場所(門、玄関等)に黄色いボードを設置するという訓練。
- ・今回は、事前に自主防災会で印刷し、自治会を通じて各家庭に配布した黄色のボードを訓練当日の朝に玄関に設置、自治会で各家庭を廻り、安否確認訓練とした。

●活動の成果

- ・黄色いボードを各戸に掲示していただいたことにより、安否確認を短時間で効率的に実施することができた。
- ・多くの家庭が黄色いボードを外から見える場所(門、玄関等)に設置しており、意識の向上を確認できた。

●課題と今後の取組方針

- ・今回の取組を有効なものにするためには、「災害時、無事であれば玄関等に黄色いボードを設置する」というルールを地域内に浸透させていく必要があり、今後、毎年の作戦実施を検討する。

茨木市危機管理課

問い合わせ:072-622-8121(代表)

072-620-1617(直通)

「防災教室」2015

(茨木市：三島地区自主防災会)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・地域の防災力と防災意識の向上を図るため、三島小学校児童生徒・保護者と一緒に防災訓練を行う。また、この取組により防災役員のスキルアップを図るとともに、地域各団体との連携を図り防災意識の向上を目指す。

●「防災教室」2015

- ・自主防災会役員が主体となり、小学校4年生児童を対象に防災教室を実施する。

(内容)

- ①担架づくりと搬送訓練(防災委員担当7人)
- ②煙体験とバケツリレー消火訓練(防災委員7人)
- ③消火器の使い方と消火体験装置 Kesuzo による初期消火訓練(防災委員7人)

●活動の成果

- ・学校の授業として実施することにより、対象である4年生全員が訓練に参加できた。
- ・自主防災会役員が主体となり実施することにより、防災役員のスキルアップが図れたとともに、学校や地域との繋がりが密接となった。

●課題と今後の取組方針

- ・今後も学校の授業の一環として継続、実施していく。
- ・子どもだけではなく、保護者も参加できるように参観日と併せて実施する等検討していく。

茨木市危機管理課

問い合わせ:072-622-8121(代表)

072-620-1617(直通)

みんなにやさしい防災めざして 女性部会発足しました！

(茨木市：茨木市自主防災組織連絡会 女性部会)



第1回 キックオフ会議の様子



第2回 事前研修会の様子

○特徴的な取組内容

●女性部会とは

自主防災組織の方針決定の場への女性の参画促進のため、茨木市自主防災組織連絡会内に専門部会として女性部会を設置しました。

女性部会では、女性の視点に配慮した避難所運営訓練など女性による防災対策の検討を行うとともに、部会員の情報交換・交流を深めることで、地域防災力の向上を図ります。

●女性部会の今年度の取り組み <女性による防災訓練を実施します！>

女性の視点に配慮した避難所運営を中心に、災害時に配慮が必要な方々のニーズや避難所での生活を想定した訓練を行います。

●女性部会員 対象者及び参加者

○対象者 各地域の自主防災組織から推薦された女性会員

○参加人数(団体数) 平成 28 年度 29人(13団体)

※本市自主防災組織数(平成 28 年 10 月末現在) 30 団体

○平成28年度のスケジュール(予定)

	日 時	内 容
第1回	10月17日(月) 午前10時～正午	女性部会キックオフ会議
第2回	11月25日(金) 午前10時～正午	女性による防災訓練の事前研修会
第3回	2月23日(木) 午前10時～15時	女性による防災訓練
第4回	3月23日(木) 時間調整中	女性部会活動報告会

●女性による防災訓練について(予定)

訓練実施日 平成29年2月23日(木) 午前10時～午後3時

会 場 茨木市立男女共生センターローズWAM

訓練内容 (1)女性の視点による避難所レイアウト作成
(2)災害時要配慮者体験コーナー等の啓発展示
(3)防災食の試食
(4)本日訓練の成果発表と防災ワークショップ など

訓練講師 ・浅野幸子さん

減災と男女共同参画研修推進センター共同代表
プロジェクトコーディネーター

・河田のどかさん

NPO法人 さくらネット

●今後の取組方針

女性会員との定期的な意見交換を行ないながら、災害時の女性や高齢者、障がい者等要配慮者への支援や各自主防災会や地域が抱えている課題解決が図れるような、実践的な取組を行なっていく予定。

茨木市危機管理課

問い合わせ：072-622-8121 (代表)

072-620-1617 (直通)

イザ！東中校区フェスタ

～中学生が主体となった防災イベント～

(茨木市：東中学校区青健ネット)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・地域の防災力と防災意識の向上を図るため、中学生が主体となり、小学生・保護者と一緒に防災アトラクションを行う。また、事前に中学生に訓練レクチャーを行い、当日は中学生が小学生に教えることにより、指導者と参加者両方の防災意識が向上することを目的として実施する。

●東中校区フェスタ

- ・中学生が主体となり、小学生を対象に防災アトラクションを実施する。

(内容)

①水消火器ゲーム ②担架ゲーム ③ジャッキアップゲーム

④応急手当ワークショップ ⑤防災紙芝居 など

●活動の成果

- ・中学生が教える立場になることで、中学生自身も防災技術を身につけることができた。
- ・中学生への事前レクチャーやイベントの準備、当日の安全管理などを通じて、学校や地域団体(青少年健全育成運動協議会、自治会、自主防災会など)同士の繋がりを強めることができた。
- ・小学生を対象にすることにより、その保護者も一緒に防災意識を高めることができた。

●課題と今後の取組方針

- ・このようなイベントは学校側の努力だけでは継続できない。
- ・災害時の小中学生の力の再認識と、市や地域の防災組織の協力体制が必要であるが、それによって着実に地域住民全体の防災意識が高まり、「災害に強いまちづくり」につながるので可能な限り継続していきたい。

茨木市危機管理課

問い合わせ：072-622-8121(代表)

072-620-1617

みんなにやさしい避難所づくり体験

～いばらき女子防災部からの発信～

(茨木市：茨木市自主防災組織連絡会 女性部会)



避難所づくり体験の様子



災害時のトイレ対策検討ワークの様子



○特徴的な取組内容

●目的

- ・女性の視点に配慮した避難所運営を中心に、災害時に配慮が必要な方々のニーズや態様を想定した訓練を実施することで、女性による防災対策の研究を進める。
- ・また、参加者の情報交換・交流を深め、地域の防災訓練等に還元することで、地域防災力の向上を図る。

●実施内容

- ・いばらき女子防災部により、女性の視点での避難所レイアウト作成や災害時のトイレ対策検討等を実施。

(詳細)

「みんなにやさしい避難所づくり体験」～いばらき女子防災部からの発信～

日時:平成 29 年2月 23 日(木)

場所:男女共生センターローズ WAM

参加人数:120 人

参加団体:

- ・茨木市(危機管理課、人権・男女共生課、保健医療課)
- ・女子防災部、自主防災会会長等

内容;

- ・災害時のトイレ対策検討ワーク
- ・女性の視点による避難所づくり体験
- ・災害時要配慮者体験
- ・防災食の試食

●活動の成果

- ・当訓練をとおして、女性部会(女子防災部)のメンバーは、災害時要配慮者に配慮した避難所設営を体験し、また、災害時のトイレ問題についても理解を深めることができたため、この経験が今後の地域の防災活動に活かされていくとともに、女子防災部の来年度以降の活動に役立つことが期待される。

●課題と今後の取組方針

- ・茨木市では平成 28 年度から、女性部会(年間約6回)を実施しており、その部会の位置づけで今回の訓練を実施した。
- ・今後も部会活動を継続して実施し、避難所運営の重要課題である衛生対策(トイレ問題)について考え、実際の地域防災訓練で実践できる内容について検討していきたい。

茨木市危機管理課

問合わせ:072-622-8121(代表)

072-620-1617(直通)

「防災教室」2021

(茨木市：葦原地区自主防災会)



○特徴的な取組内容

●目的

・葦原小学校児童・PTAと一緒に防災訓練を行い、日常的な連携を強めるとともに、地域の防災力と防災意識の向上を目指す。

●「防災教室」2021

・防災士3名を含む自主防災会役員が主体となり、葦原小学校4年生児童を対象に防災教室を実施した。

(内容)

①シェイクアウト訓練

②スモークマシンを使用した煙体験訓練

③消火器の使い方と消火体験装置 Kesuzo による初期消火訓練

④コロナ禍における使い捨て手袋着脱訓練

●活動の成果

・自主防災会役員が主体となり実施することで、防災役員の技術向上を図ることができた。

・学校の授業として実施することで、対象である4年生全員が訓練に参加できた。

・地域と学校との連携が強化された。

●課題と今後の取組方針

・今後も授業の一環として継続、実施していく予定。

・保護者も参加できるようになれば、さらなる地域防災力の向上に繋がることが期待できる。

茨木市危機管理課

問い合わせ:072-622-8121(代表)

072-620-1617(直通)

女性を主役にした組織活性化（八尾市美園地区自主防災組織）



★可搬ポンプ放水訓練の様子★



美園小学校区まちづくり協議会会長 高木 吉久さん

人のお世話にならぬよう
人のお世話をするように

美園小学校区まちづくり協議会の高木会長は、地域のまちづくりに女性の力を積極的に活かし、日々の活動に取り組まれています！

私が住む美園小学校区は、比較的新しいまちですが、地域活動には実に多くの女性が携わっておられます。中でも私は、防災面での女性の力の活用がとても大事だと考えています。同校区では、平日昼間帯は女性が多く、いざ事が起これば女性が主力となって動いていただかざるを得ません。そのため、自主防災訓練では、女性だけで重たい可搬ポンプの設置から

放水までを実際に行っていたり、万々に備えています。子どもや高齢者の見守りも含め、**安全安心な地域づくりには、女性の力は不可欠です。**様々な活動に際して、積極的に意見を出してくれる女性が多く、男性の力と互いによく組み合わせることが、地域の発展にもつながります。目先のことではなく、10年、20年先を見据え、子育て世代の保護者が、積極的に地域のまちづくりを楽しめるようにも心掛けています。これからも、地域の担い手となる方々と一緒に、「みんなの笑顔があふれる美しいまち美園！」をめざしていきます。

○特徴的な取組内容

●目的

・平日の昼間の時間帯に地域防災の担い手として活動できる人に女性が多い現状から、発災時に活動できる地域の女性を増やすことを目的に、女性を主役とした訓練等を実施している。

●主な活動

・女性だけで可搬ポンプの設置や放水までの訓練を実施するとともに、消防出初式で放水活動を披露。
・「初期消火班」「救出救護班」等の発災初期に動くことが必要とされる班については、女性メンバーを中心に編成し、日頃から訓練を実施している。

●活動の成果

・訓練等への参加をきっかけに地域の防災活動について理解いただいた。また、女性ならではの目線で「地域のまちづくり」に積極的に自分の意見を述べていただき、自主防災組織の活性化につながっている。

●課題と今後の取組方針

・課題は、女性役員が固定化されているため、PTA等の子育て世代と連携して、若い世代の女性役員を育成し、世代交代を行うとともに組織の更なる発展へと繋げていく必要がある。
・今後は、顔見知りの輪を広げていくため、防災訓練等でチーム編成を初対面同士にするなど、住民理解を得ながら取り組みを工夫して、地域コミュニティの醸成を図り、地域のまちづくりの発展へつなげていく。

八尾市美園地区自主防災会

結 成:平成 16 年

規 模:約 5,000 人

問い合わせ:八尾市消防本部 防災・管理指導担当

072-992-2980(直通)

学生消防隊が地域防災活動を活性化！

(八尾市：大阪経済法科大学学生消防隊 SAFETY)



学園祭の様子



自主防災ボランティア活動の様子



出初式の色水と一緒に一斉放水



出初式での分列行進

○特徴的な取組内容

●目的

- ・平成 28 年に大阪経済法科大学と八尾市消防本部は消防支援ボランティアに関する覚書を締結。自助・共助を担う自主防災組織や地域住民が高齢化するなか、「地域防災力の次世代の担い手」を育成することを目的に、大阪経済法科大学学生消防隊 SAFETY が発足した。

●活動内容

①八尾市消防本部主催の訓練への参加

消防支援ボランティア講習、普通救命講習、消防自動車及び可搬ポンプ操作訓練等へ参加

②地域の自主防災活動へ参加

八尾市内各地の自主防災活動へサポートスタッフとして参加し、消防本部での訓練で得た知識を伝えることで、地域防災力の強化へ貢献。

③防災についての啓発活動

大阪経済法科大学 学園祭「経法祭」やオープンキャンパスでのブース出展

④消防出初式に参加

市民に学生消防隊 SAFETY の活動を認識してもらえる場として分列行進や一斉放水で活躍している。

●活動の成果

- ・消防本部の訓練へ参加することにより、学生自身が防災知識を深めることができた。
- ・地域の自主防災活動への参加を通じて住民との交流を深め、地域の活性化に貢献。また、八尾市外の防災団体からの問い合わせや協力要請など、八尾市の取組内容としての PR 効果も表れている。
- ・学園祭やオープンキャンパスの来場者に対し、学生主体により防災活動の説明や消火器・AED・救命救急体験キットを用いて体験指導を行うなど、市民の防災意識の向上に貢献している。

●課題と今後の取組方針

学生の取組状況に差がでているので、学生消防隊全体の士気を高める必要がある。

今後の取組み

- ・ブログでの広報、情報発信の強化
- ・新入隊員募集活動(入学式)の実施
- ・サークル内レクリエーション(スポーツ大会、隊員交流イベント)の拡大
- ・自主訓練(トレーニング・勉強会)の実施
- ・他大学 及び 消防団組織との交流など

大阪経済法科大学
学生消防隊 SAFETY

結 成:平成 28 年

規 模:89 人

問い合わせ:八尾市消防本部 防災・管理指導担当

072-992-2980(直通)

避難所開設のためのサイクル訓練(班別体験訓練)

(泉佐野市：新町防災会)



非常物品の説明



簡易ベッドの組み立て

○特徴的な取組内容

●目的

- ・避難所を体験する。

●避難所開設のためのサイクル訓練(班別体験訓練)

・訓練内容

- 簡易ベッドの組み立て
- 簡易トイレの組み立て
- 応急担架の作成
- 非常物品の説明

・実施要領

- 参加者を 4 個班に分け、上記各訓練を持ち回りで、各班、訓練 15 分、移動を 3 分で実施する。説明指導は、住民自ら実施する。

●活動の成果

- ・避難所に必要な物を体験できた。また、時間を決めサイクル方式で実施したため、効率的に訓練ができた。
- ・地震の体験者に説明を実施させたために、参加者は興味を持って熱心に聞くことができた。

●課題と今後の取組方針

- ・避難所開設のため、さらに訓練内容を充実させる。

新町防災会

結成：H22.10.1

規模：424 世帯、903 人

問い合わせ：市民協働課

072-463-1212

(内線 2276)

段階的訓練の実施

(泉佐野市：笠松町自主防災組織)

- 笠松町自主防災会
- 4/26 : 消火訓練(防火講話含む)
- ↓
- 8/2 : 防災講話(異常気象、家具の固定)
- ↓
- 9/10 : HUG 実施要領の幹部への事前説明
- ↓
- 9/21 : HUG(避難所運営訓練)の実習
- ↓
- 10/25 : 総合訓練(避難訓練、炊き出し訓練)



避難訓練時の集合状況

○ 特徴的な取組内容

● 目的

- ・1年に1回、義務的に訓練するのではなく、講話から実技へと段階的に手順を踏んで逐次訓練内容を深め、防災の知識や実技を、着実に身に付けさせる。

● 段階的訓練の実施

・防火・防災講話の実施

年度の当初は、知識の修得を中心に訓練を実施

・HUG(避難所運営ゲーム)の実施

訓練自体の運営を効率的に実施するために、当初防災担当役員を集めて HUG 訓練を経験させ、その特性、狙い等について教育する。その後、一般住民に対し、本ゲームを実施する。この際、各班に必ず、事前教育を受けた役員を配置する。

・総合訓練

各区毎に、それぞれ一次避難所に一旦集合させた後、再び各区毎にまとまって最終避難所に全員を集合させる。その後、本部での受付確認や各種訓練を実施する。

● 活動の成果

- ・1年を数回に分け、段階的に逐次訓練を実施するために、訓練効果を上げる事ができる。

● 課題と今後の取組方針

- ・総合訓練における訓練内容を充実していく。

笠松町自主防災会

結成:H25.1.11

規模:1,306世帯、2,619人

問い合わせ：市民協働課

072-463-1212

(内線 2276)

防災運動会方式訓練

(泉佐野市：佐野台自主防災会)



応急担架による搬送競技



バケツリレー競技

○特徴的な取組内容

●目的

- ・参加住民が、子供から大人まで防災訓練を楽しみながら、かつ興味を持ってできるように、運動会方式で実施する。

●防災運動会

・応急担架の搬送競技

毛布と物干し竿で応急担架を作成し、負傷者を 6 人がかりで約 25m 搬送する。

・バケツリレー競争

10 人一組でチーム編成し、バケツリレーで応急タンクの水を運搬、競争する。

・防災クイズ

防災関係の知識を○×のクイズ方式で、正解者の勝ち残り、最終的に残った者に賞品を与える。

●活動の成果

- ・参加住民が、楽しくかつ、チームワークを重視して実施できた。

●課題と今後の取組方針

- ・最初の数年は、住民自体が訓練に慣れていないため、安全管理を重視し、競技会方式ではなく、基本的動作を反復訓練する。
- ・競技の種類を逐次増やしていく。

佐野台町自主防災会

結成:H25.3.1

規模:853 世帯、1,524 人

問い合わせ:市民協働課

072-463-1212

(内線 2276)

避難行動要支援者名簿で見守り活動を実施

(住民相互の助け合いの仕組みづくり)

(河内長野市：楠翠台自治会)



見守り活動風景



意見交換風景

○特徴的な取組内容

●住民相互の助け合いの仕組みづくりについて

・住民の日常の安心、安全が保たれるように、従来から、民生・児童委員、福祉委員会、自主防災委員会、防犯協議会がそれぞれ別々に支援活動を行っていたが、支援が重複したり、必要な人に行き届かなかつたりなどの支援体制の不備があることなどの問題点があった。

そこで、避難行動要支援者制度を契機として、支援活動をしている関係者同士で検討会を重ね、自治会の一つの組織として、助け合いのための委員会をつくり、委員会のもと支援体制を構築し、支援活動を行う「なんすいひまわり会」を平成 27 年 4 月に発足し、地域で同会の目的に賛同した会員 50 人が気付き・声かけなどを中心とした見守り活動を行うこととなった。

●活動を始めるにあたり

・市から提供された「避難行動要支援者名簿」と、さらに要支援者の要件を広げ、独自に作成した名簿及び支援マニュアルを基に、支援体制を確立した。

さらなる支援要件

- ①1人住まいで 65 歳以上と思われる方
- ②同居だが 80 歳以上と思われる方

●活動内容

- ①気付き・声かけ活動
- ②近隣から寄せられた支援情報のフォロー、確認
- ③情報の提供(福祉委員会、自主防災委員会、防犯協議会等から発信される福祉・健康、防災・減災、避難、防犯等の情報の伝達、助言・支援)
- ④訪問、会話をすることによるコミュニケーションで安全・安心感の醸成
- ⑤これからの支援内容について委員会への意見の提案・交換、検討・研究

●活動の成果

- ・訪問、声かけ支援を望んでいる方からの感謝の声を聞いている。
- ・訪問、声かけの際に相談を受け、高齢者を狙った振り込め詐欺の注意を喚起することができた。
- ・支援者と避難行動要支援者とのコミュニケーションはもちろんの事、支援者同士のコミュニケーションを深めることができた。

●活動の想い

- ・「誰もが住んで良かったと思える町にしたい——」との想いから、福祉のつながりから始まった活動で実際の避難行動には課題もあるが、こうした日頃の関係が、いざという時の備えにつながっていくと確信している。

なんすいひまわり会

結 成 平成27年

規 模 461世帯、1,100人

地 理 住宅開発団地

問い合わせ 河内長野市 危機管理課

0721-53-1111(代表)

地区の土砂災害ハザードマップ作成訓練

(柏原市：国分東条町第1・2区自主防災会)



○特徴的な取組内容

●目的

- ・土砂災害を想定した座学と訓練を実施することにより、地域住民の土砂災害に対する注意喚起を促し、訓練により住民から得た詳細な情報をもとに、土砂災害ハザードマップを作成し、災害時の避難に役立てる。

●訓練内容

- 座学：土砂災害の特性を知る (八尾土木事務所)
- ：柏原市の特徴について (砂防ボランティア)
- ：地区の警戒避難体制について (柏原市)
- 訓練：土砂災害を想定した図上訓練

●活動の成果

- ・土砂災害に対する知識を得るとともに、詳細な情報をマップに落とし込みすることによって、地域住民で共有し、防災意識の高揚を図ることができた。また、訓練を通して災害時に円滑に避難するためには、日頃からの地域でのコミュニケーションが重要であることが認識できた。

柏原市危機管理課

問い合わせ：072-972-1501(代表)

：072-972-1529(直通)

洪水被害犠牲者ゼロをめざして

(摂津市：香和自治会)



○特徴的な取組内容

●目的

摂津市において「地域から水害による犠牲者を一人も出さない」ことを目的に香和自治会において、地域版の防災マップ作りに取組んできた。

●主な活動

- ①平成27年8月 キックオフ会議(近年の災害を踏まえ地域防災のあり方について)
- ②同年10月 第1回ワークショップ(地域内の建物所有者に緊急一時避難所として、洪水災害時に建物の利用について協力要請)
- ③同年12月 第2回ワークショップ(自治会にお住いの高齢者や身体の不自由な方、小さなお子さんがいる方など、避難の支援を希望する方(おねがい会員)と避難の手助けに協力していただける方(まかせて会員)を把握し、災害時要援護者の支援方法について検討)
- ④平成28年1月 第3回ワークショップ(地域の緊急避難体制について検討)
- ⑤同年3月 香和自治会版防災マップ完成

※(NHK ニュース(関西)で「高齢者を上の階に浸水避難訓練」で放送。【2019年1月20日】

●活動の成果

- ①地域住民の洪水災害に対する認識の高まり。
- ②避難場所を地域で選定することにより迅速な避難行動につながる。
- ③地域の避難場所確保への取組みに対する建物所有者の方々の理解。
- ④地域で支え合う「お願い会員」「まかせて会員」募集活動への賛同と共助の輪の広がり。

●課題と今後の取組方針

- ①「おねがい会員」「まかせて会員」の組織編制(マッチング)が困難。
- ②「住民自らの判断で避難行動をとる」ことを目的に、自治会で企画運営等の実施など行政に頼らない訓練を実施。
- ③若者・女性・子どもなど幅広い層の訓練参加の必要性。
- ④自治会単位からより小さいコミュニティによる継続した訓練の実施。

摂津市香和自治会

結成:昭和46年

規模:世帯数約500世帯

問い合わせ:摂津市防災管財課

地域版ハザードマップ作成訓練！！

(東大阪市：縄手南自主防災会)



○特徴的な取組内容

●目的

・東大阪市の東地域には生駒山があり、出水期には土砂災害が危惧されている。その他にも、河川氾濫等による浸水害や地震による住宅密集地域における火災の延焼などから身を守るため、地域におけるハザードマップの作成を通じて、地域の細かな情報を伝え、各個人の避難行動をあらかじめ考えていただくことを目的とする。

●訓練内容

①各地域に起こりうる災害についての講習会

平成26年度より土砂災害の危険性のある東地域から本格的に取り組み始めたため、八尾土木事務所の担当者から、自主防災組織等のメンバーに対して土砂災害の前兆現象や映像を使った被害の模様や危険性についての講習会を行う。

②DIG形式を用いた地域のハザードマップ作り

①で学んだことを活かして、八尾土木事務所が土砂災害警戒区域などを示した地域のマップに、自主防災組織等のメンバーが指定避難所や一時避難場所、避難経路や災害危険ポイント（過去に災害が発生した場所や内容など）などを落とし込む。

③まちあるきの実施

②で書き込んだ内容を基に、避難経路や危険箇所の確認をしながら、まちあるきをし、漏れていた点や新たに気付いた点を追加・修正をする。

④地域版ハザードマップの使い方や避難行動についての講習会

完成した地域版ハザードマップを用いて、土砂災害警戒区域など危険な区域に居住している場合は、あらかじめ考えた避難経路で山側と反対の区域外への避難行動をとるなどの啓発を行う。また同時に、市から発信する避難情報の説明やその時取る行動、避難情報の収集手段などについての説明も行う。

また、地図面の裏面に、指定避難所の連絡先や自主防災組織の連絡網などを載せ、自主防災組織に配布している。

●活動の成果

- ・自主防災組織のメンバーが集まり、自分の住む地域がどういう条件にあるのか改めて認識・共有する機会となった。
- ・市域全体のハザードマップでは確認できない情報を落とし込むことで、具体的な避難行動をあらかじめ決めておくことができた。

●課題と今後の取組方針

- ・今後は自主防災組織の防災訓練において、地域版ハザードマップを使った避難(誘導)訓練を実施する。
- ・避難訓練などを通じて、地域版ハザードマップに情報を付け加え、マップの更新も行っていく。

東大阪市 危機管理室

問い合わせ:06-4309-3130(TEL)

06-4309-3858(FAX)

e-mail:kikikanri@city.higashiosaka.lg.jp

880万人訓練や風水害訓練と連動した訓練

(河南町：大宝地区自主防災ネットワーク)



大阪880万人訓練「避難所HUG体験会」ご案内

【HUGとはH(避難所)・U(運営)・G(ゲーム)の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。】

もし、あなたが避難所の運営をしなければならない立場になったとき、最初の段階で殺到する人々や出来事にどう対応すれば良いのでしょうか。避難所の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるのか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

日時：平成26年9月5日(金) 午前9時30分から12時

場所：大宝公民館 2階 2・3号研修室

参加人数：30名

○特徴的な取組内容

●目的

・南海トラフ地震などが間近に迫る中、災害時に被災者に安全と安心の場を提供するため、自主防災組織や地域住民による円滑な避難所運営を行えるようにする。

●連動訓練

・大阪880万人訓練と連動させ、避難後の生活を体験するため、避難所HUG体験を実施。年齢や性別、国籍など、それぞれが抱える事情が書かれたカードを平面図上でどれだけ適切に配置できるか、また、避難所で起こる様々な出来事にどう対応するのか、ゲームを通して疑似体験した。

●活動の成果

・避難所で起こる様々な出来事に対し、どう対応していくか本番さながらの訓練が行われ、避難所での備えを確認することができた。

●課題と今後の取組方針

・少子高齢化に伴う人口減少が続く中、避難行動要支援者が増え続けている。今後は、支援者の増員を図るとともに支援者間の連絡体制の強化などを行う。

河南町総合政策部危機管理室

問い合わせ:0721-93-2500(内線223)

幼稚園と一体となった避難訓練

(河南町：かなん幼稚園)



避難訓練のご案内

- 1、日 時
・平成 27 年 3 月 11 日 (水)
・午前 10 時 30 分～午前 11 時 30 分まで
- 2、場 所
・かなん幼稚園 及び中央公園 (幼稚園南横)
- 3、内 容
・地震を想定した避難訓練を行う。
・園児は園から第 2 避難場所である中央公園へ、大宝地区自主防災ネットワークの方、消防士、民生委員、近隣の人たちと一緒に避難する。
・中央公園にて保護者への引渡し訓練をおこなう。
・消防士による水消火訓練・タンカーづくりの見学をする。
- 4、参 加 者
・園児、保護者、大宝地区自主防災ネットワークの方
消防士、民生委員、園近隣の人たちなど

○特徴的な取組内容

●目的

- ・保護者や自主防災組織、消防署、民生児童委員、近隣住民らが参加し、地域ぐるみで子どもたちの安全確保を図る。

●幼稚園と一体となった訓練

- ・幼稚園児にピンクの頭巾をかぶせ、地域住民が避難場所に指定されている公園に、子供たちを誘導する避難訓練。訓練に参加していた地域住民や幼稚園児の保護者にも、簡易タンカの作成方法等、様々な指導を実施した。
- ・布は町で準備し、頭巾の作成については地域のボランティアに協力をお願いした。幼稚園の園長から地域に話し合いを持ちかけ、実現した。

●活動の成果

- ・災害時において冷静に、迅速に的確な行動をとることや子供たちの保護者への引き渡し手順などの確認が行えた。

●課題と今後の取組方針

- ・保護者の一部の方に場合によっては、子供たちの引き渡しには応じることができないことが判明した。今後は近所同士での助け合いの中で子供たちの引き渡しが行えるように手順の確認などを行う。

河南町総合政策部危機管理室

問い合わせ:0721-93-2500(内線 223)

平成 27 年 9 月	初版
平成 28 年 5 月	第 2 版
平成 29 年 1 月	第 3 版
平成 29 年 11 月	第 4 版
平成 31 年 3 月	第 5 版
令和 2 年 3 月	第 6 版
令和 4 年 2 月	第 7 版